

令和元年6月26日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03763

研究課題名（和文）女性医療専門職における生涯継続教育の方法論開発 キャリアヒストリー法の構築と活用

研究課題名（英文）The Development of Research/Education Methodology in Continuing Education of Woman Clinical Professionals; construction and application of Career History Method

研究代表者

渡邊 洋子（WATANABE, YOKO）

新潟大学・人文社会科学系・教授

研究者番号：70222411

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、現代の女性医療専門職（女性医師・女性看護師）の生涯的視野に立ったキャリア形成/継続への貢献を目指す研究/実践の方法論「キャリアヒストリー法」の開発・活用を目指した。独自のフォーマットを使った個人・グループインタビュー法を構築し、トライアルを研究法で8回・実践法で2回、行った。欧米の医学部訪問や海外女性医師との交流も活かしつつ定式化に努めた。研究成果は研究論文12本、学会報告2件など。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2018年夏、医学部不正入試の発覚を発端に「入口」段階での女子差別が社会問題化したことは、本研究で私たちが対峙し考察や議論を深めてきた問題構図の認識が、全社会的に一定程度共有されたことを意味する。だが、その背景には医療現場の労働の厳しい現実がある。医師のみならず看護師でも、過重労働やバーンアウトなど生涯働き続ける上での問題は山積する。女性も男性も、すべての医療専門職が生涯キャリアの視点を持ち、プロフェッショナリズムとキャリア・ライフを両立できる社会に向け、本研究の社会的使命は重大と考える。

研究成果の概要（英文）：This study is the collaborative investigation that we develop the Career History Method to function both as the research methodology and as the practice methodology, for the carrier formation/continuation that stood in the lifelong perspectives of modern woman health profession, particularly the life of a woman doctor and the woman nurse.

We have revised the lifeline method and developed our own method style. We got the cooperators of the woman doctors and nurses for the research methodology trial eight times, and practical methodology trial with the nurse student group interviews twice, so far. We visited the medical departments of U.K., North Europe, and Canada, and participated in the national conference of Canadian woman medical association, which enabled us to have wider international perspectives. The outcome of research are twelve papers in academic journals, two oral reports at the national conference of societies of education, two related books and the two inclusive reports.

研究分野：生涯教育学

キーワード：女性医療専門職 生涯キャリア キャリアヒストリー 専門職教育 キャリアデザイン 生涯継続教育 ジェンダー 方法論開発

1. 研究開始当初の背景

1) 現代の専門職としての医師

本研究に先立ち、代表者は2006年以降、日本医学教育学会専門委員会委員として医学教育専門家認定制度の構築・運用に携わり、医療系のFD研修やWS講師なども務めてきた。そこで得た知見によれば、現代の医師は、専門職としての自己省察、専門職的状况と社会的ニーズに的確に対応できる資質・能力、専門職アイデンティティ、キャリアの能動的な構築・継続などをますます求められるようになってきている。だが他方で、医師の専門職性の基軸となる価値観の形成に向けた、自己省察の機会はいまだに多くはない。「燃え尽き症候群」「現場撤退」等が問題視され、医師のキャリア研究がようやく始動する中、生涯を見通した職業継続教育の研究方法論と、自己省察を中核とする有効な学習方法論が切に求められていた。

2) 医療専門職の女性化と女性医師の生涯キャリア

近年、欧米では急速に専門職の女性化(feminization)が進み、EU諸国の比較研究からは、医療に加え、法律・財務専門職等にも同様の傾向が見出される。代表者は、明治期以降、「女性参入型」専門職(男性を前提に成立し、女性の参入により変化した領域)として発展した医師養成の特徴に注目してきた(渡邊洋子『近代日本の女性専門職教育 生涯教育学から見た東京女子医科大学創業者・吉岡彌生』、明石書店、2014)。戦後の医師養成は、東京女子医科大学以外を除き、男女共学体制の下で、男女平等の建前において展開されたが、女子にとってそれは平坦な道ではなかった。近年、医師不足問題から女性医師の「現場撤退」が社会問題化されると、日本医師会や大学医学部・大学病院、各種学会などが、女性医師支援への取り組みを開始した。その中心課題は、キャリア継続と「両立」問題であり、女性医師の就労意識やモチベーション、キャリア形成期や育児・子育て期への心理学的アプローチなどに焦点があてられた一方、総じて当事者(=女性医師自身)の視点が弱く、生涯的視野に乏しかった。

医療の高度化と専門分化にともない医療専門職の裾野が広がる中、医療専門職全体に女性の占める割合は増えつつあった。にもかかわらず、「男性参入型」専門職(女性を前提に成立し、男性の参入により変化した領域)の看護領域でさえも、新人看護師や中堅看護師の離職率の高さが問題視される状況にあった。安定した医療人材確保・人材配置に向けて、女性医療専門職全般を視野に入れたキャリア研究/教育研究が要請されていた。

2. 研究の目的

本研究に先立ち、代表者は科研費基盤(B)「日英の女性医療専門職の生涯キャリアと養成・支援に関する総合的研究」(2013~15年度)において、日英の主に女性医師のキャリア形成・継続をめぐる多面的考察を行っている。同研究では特に、日本の女性医師にとってのキャリア、プロフェッショナリズム、ロールモデルなど鍵概念の位置関係と論理構造を明らかにしたが、そこで喫緊の課題と認識したのは、当事者の視点と生涯的視野に立った女性医療職のキャリア研究の必要性、および、当事者の目線から生涯的視点を明確に組み込んだキャリア学習機会(ワークショップなど)の実践方法論の必要性であった。

本研究の目的は、以上の問題意識を引き継ぎつつ、生涯キャリア的視座から、現代日本の女性医療専門職の養成・研修に資する研究/実践方法を研究開発しようとするものである。具体的には、女性医師・女性看護師のキャリア形成/継続をめぐる研究的・実践的課題に注目し、キャリア変遷分析の研究方法論、課題克服に向けた自己省察の手段となる実践方法論、の両機能を

もつキャリアヒストリー法を新たに開発・構築し、その研究・実践上の活用方法の提起に取り組みむことを目指す。

3. 研究の方法

研究助成期間における研究方法の概要は、以下のようなものであった。

- 1 キャリアヒストリー研究会を組織し、研究活動の柱としての開催・運営
- 2 キャリアヒストリーの構築作業
キャリアヒストリーの理論的枠組みや関連諸要素、他専門職や他分野との比較検討
分析フォーマット（暫定版）の作成、調査方法と手続きの決定、関連文書の作成
- 3 研究版のトライアルの実施、記録・分析
- 4 以上をもとに、キャリアヒストリー研究方法論の定式化
- 5 分析フォーマットの実践版作成、実践方法と手続きの決定、関連文書の作成
- 6 実践版のトライアルの実施、記録・分析

* トライアルは、研究方法については女性医師 / 女性看護師を対象に、フォーマットを用いた個人インタビューを、実践方法については、看護学生を対象に、フォーマット実践版を用いてグループインタビューを行った。後日、それらの記録を整理し、キャリアヒストリー研究の方法論の定式化とワークショップ等の実践への適用に向けた議論を行った。

* 本研究に関わっては、研究倫理審査「医師を中心とする女性医療者の生涯キャリアとキャリアヒストリーに関する質的調査」(京都大学医の倫理委員会 2016年4月26日承認、承認番号：R0350)を受けている。

各年度の研究の主な経過は、以下のとおりである。

【平成28年度】医療諸領域における女性専門職の生涯キャリアの視点から、メンバーの問題関心や実践経験を共有し、各領域のキャリア研究の動向把握や研究課題の抽出に努めた。またイギリスとカナダの医学・医療者教育の現場に赴き、情報収集を行った。

【平成29年度】前半期は、事前文書、インタビューガイド、ワークシートなど一連のフォーマットと具体的手法の作成・検討を行い、後半期はこれらを用いたトライアルを医師5回、助産師1回、実施した。また、GPの増加で医師の「女性化」が顕著なイギリスと、OECD先進諸国で女性医師の割合が最多のフィンランドで、女性医師や女子医学生の実態や意識を探る一方、米国女性医師会とも連携して活動を展開するカナダ女性医師会の年次大会に参加し、動向の体験的理解に努めた。加えて吉岡彌生研究の成果を2回講演した。

【平成30年度】計6回の研究会を開催。引き続き、研究方法論開発に取り組み、看護師を対象に2回のトライアルを実施し、これまでの計8回のトライアルの振り返りを踏まえた考察・検討を行い、研究成果を取りまとめた。またフォーマットを記入しながら互いのキャリアについて話し合う「実践法」のトライアルとして、2019年2~3月に計2回の看護学生グループインタビューを実施した。カナダのマクマスター大学での医師のキャリアや学部教育に関わるヒアリング、カナダ女性医師会年次大会への再度の参加などで、海外の女性医師との交流・議論を深めた。

4. 研究成果

いる。女性療専門職が、生涯キャリアの視点を持ちつつ、職業人としてプロフェッショナルリズムとキャリア・ライフを両立させていける社会に向けて、本研究が今後果たすべき役割は、意図や希望を超えた社会的使命をも帯びたものになると考えられる。

同時に重要なのは、女性医療専門職の生涯キャリアや働き方を考えることが、男性医療専門職が現状で抱える問題状況や諸課題をあぶり出し、医療専門職全体のキャリアや働き方の捉え直しにつながると思われる点である。専門職でも、いや専門職だからこそ、ジェンダーを超えて、人間らしい働き方・生き方が展望できる研究を、これからも目指したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計12件)

渡邊洋子「総論：医療専門職の特徴 医師をめぐる多面的考察から－」『社会保障研究』第3巻第4号、国立社会保障・人口問題研究所、2019、458 - 475頁。

池田雅則・池田法子「フォーカスグループインタビュー・パイロットプログラムの実施」『女性医療専門職における生涯継続教育の方法論開発 キャリアヒストリー法の構築と活用』研究成果最終報告書、2019年、51 - 54頁。

種村文孝、犬塚典子、池田雅則、池田法子、渡邊洋子「ライフラインチャート活用の到達点と課題 女性医療専門職のキャリア研究方法として－」『創生ジャーナルHuman and Society』第2巻、2019年、118 - 119頁。

池田雅則「看護教員養成所の設置および入学の動態 平成期(1989～2019)30年の変化」『創生ジャーナルHuman and Society』第2巻、2019年、130 - 149頁。

犬塚典子「カナダにおける女性医師の養成と継続専門教育(CPD)」『田園調布学園大学紀要』2018年、133 - 147頁。

渡邊洋子「『生涯学習者としての教師』の課題と可能性」石井英真・渡邊洋子編著『教育実習・教職実践演習・フィールドワーク』(教職教養講座第15巻) 協同出版、2018年10月、133 - 158頁。

渡邊洋子「教師にとってのフィールドワーク」石井英真・渡邊洋子編著『教育実習・教職実践演習・フィールドワーク』(教職教養講座第15巻) 協同出版、2018年10月、209 - 234頁。

渡邊洋子「キャリアヒストリー法の構築に向けて－女性医師を対象として」『創生ジャーナルHuman and Society』創刊号、新潟大学キャリア創生研究会、2018年3月、65 - 74頁。

渡邊洋子「家庭・地域と教師の仕事」高見茂・田中耕治・矢野智司編著『教職教育論』(教職教養講座第1巻) 協同出版、2017年12月、163-188頁。

渡邊洋子「専門職のキャリアをめぐる現代的課題：女性医師を手がかりとして」『京都大学生涯教育フィールド研究』第4巻、2016年、3 - 16頁。

犬塚典子「女子中高生への理系進路選択支援」『主体的な学び』第4号、主体的な学び研究所、2016年、150 - 163頁。

犬塚典子「雇用分野のポジティブアクション」『We learn』日本女性学習財団、No.753、2016年、11 - 12頁。

〔学会発表〕(計2件)

渡邊洋子・池田法子・種村文孝・池田雅則・犬塚典子「キャリアヒストリー法の構築 女性医療専門職に焦点を当てて」、日本教育学会第77回大会ラウンドテーブル、2018年8月30日、

宮城教育大学。

犬塚典子・池田雅則・種村文孝・池田法子・渡邊洋子「職業人生を振り返る／見通す学習 キャリアヒストリー法の課題と可能性」日本社会教育学会第65回研究大会、2018年10月6日、名城大学。

〔図書〕(計4件)

渡邊洋子(研究代表者)『女性医療専門職における生涯継続教育の方法論的開発 キャリアヒストリー法の構築と活用』研究成果最終報告書、2019年、全87頁。

渡邊洋子(研究代表者)『女性医療専門職における生涯継続教育の方法論的開発 キャリアヒストリー法の構築と活用』中間報告書、2018年、78頁(以下、最終報告書に縮小版を再録)

石井英真・渡邊洋子編著『教育実習・教職実践演習・フィールドワーク』(教職教養講座第15巻)協同出版、2018年10月

犬塚典子『カナダの女性政策と大学』東信堂、2017年、全288頁。

6. 研究組織 (以下、研究分担者)

研究分担者氏名：犬塚 典子

ローマ字氏名：INUDUKA, Noriko

所属研究機関名：田園調布学園大学

部局名： こども未来学部

職名： 教授

研究者番号(8桁)：70400471

研究分担者氏名：池田 雅則

ローマ字氏名：IKEDA, Masanori

所属研究機関名：兵庫県立大学

部局名： 看護学部

職名： 教授

研究者番号(8桁)：60609783

研究分担者氏名：種村 文孝

ローマ字氏名：TANEMURA, Fumitaka

所属研究機関名：京都大学

部局名： 医学研究科

職名： 助教

研究者番号(8桁)：80806711

研究分担者氏名：池田 法子

ローマ字氏名：IKEDA, Noriko

所属研究機関名：足利短期大学

部局名： こども学科

職名： 助教

研究者番号(8桁)：90827205